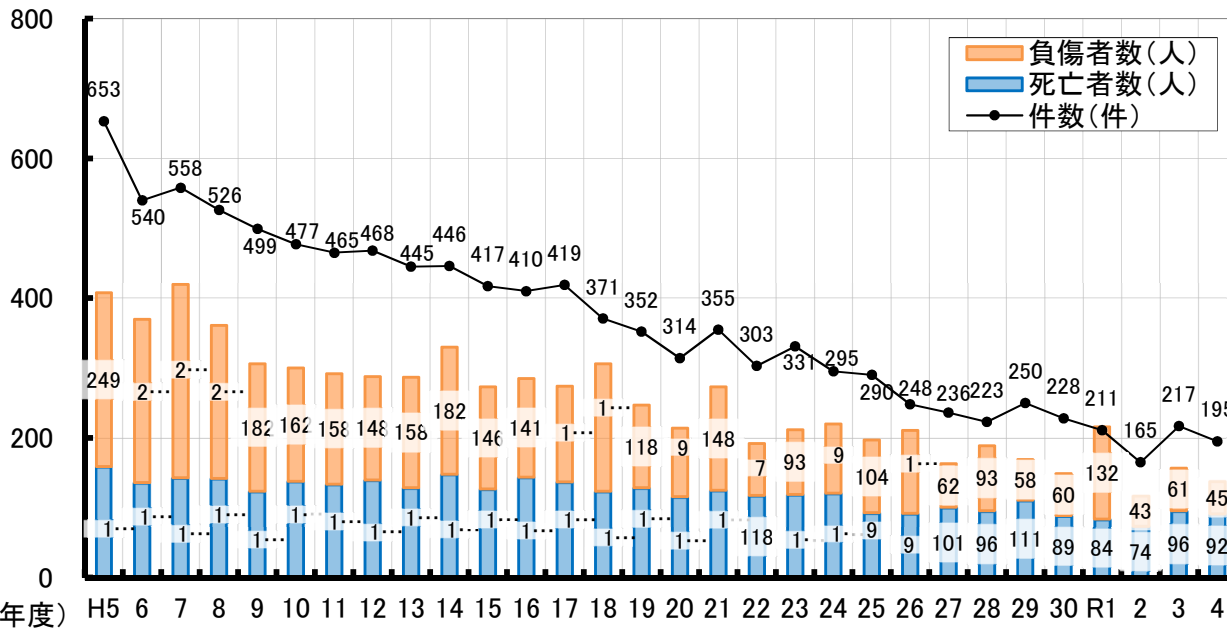


踏切道の現状について

近畿運輸局
令和5年12月

令和4年度 踏切事故の発生状況

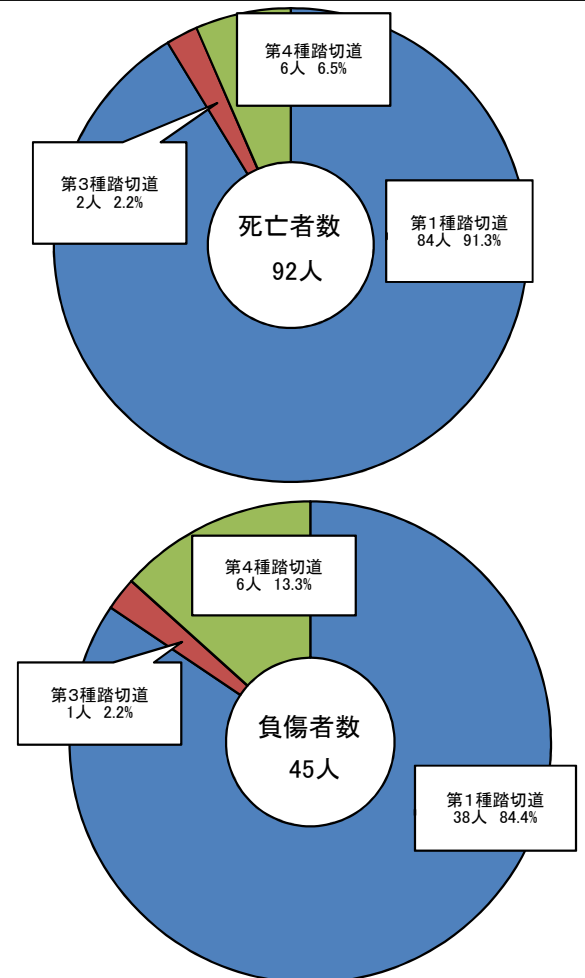
- ・踏切事故の件数は、長期的に減少傾向にあり、令和4年度は、195件(対前年度比22件減)であった。
- ・内訳は、第1種踏切道174件(対前年度比15件減)、第3種踏切道5件(同1件増)、第4種踏切道16件(同8件減)であった。
- ・また、踏切事故による死傷者数は137人(対前年度比20人減)であり、うち死亡者数は92人(同4人減)であり、件数同様、減少傾向であるが、第3種踏切道及び第4種踏切道における事故の発生状況から、廃止等を含めた対策が必要である。



踏切事故の件数及び死傷者数の推移

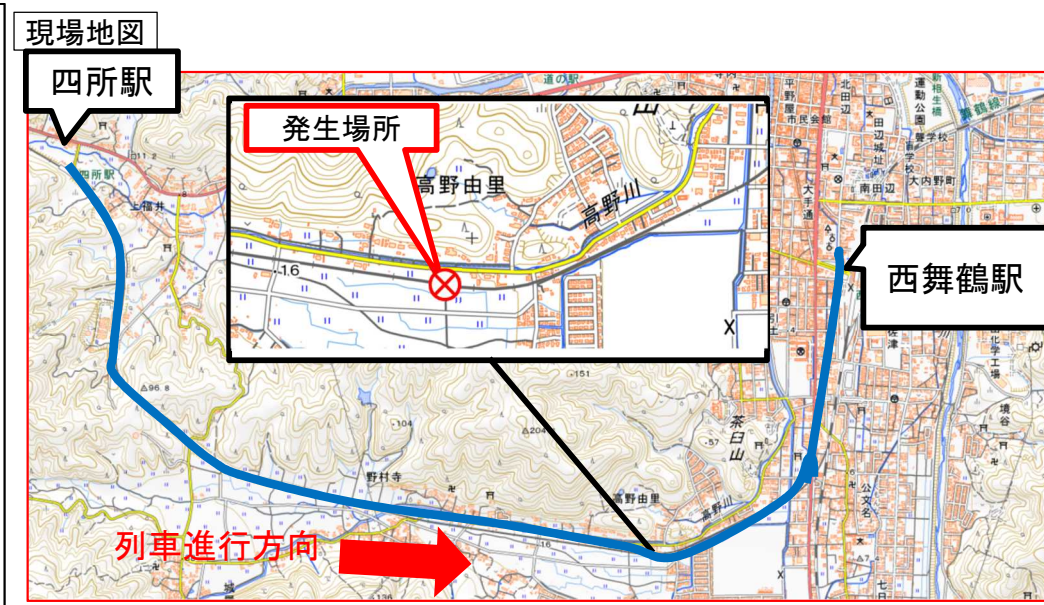
高齢者(65歳以上)が関わる踏切事故の内訳は、「第1種踏切道における死傷者数は39人、うち死亡者数は22人」、「第3種踏切道における死傷者数は1人、うち死亡者数は0人」、「第4種踏切道における死傷者数は5人、うち死亡者数は3人」

踏切事故の死傷者数の約33%が高齢者。第3種、第4種では約42%が高齢者



踏切事故の踏切種別毎の死傷者数(令和4年度)

1. 事業者名：WILLER TRAINS 株式会社
2. 事故等種類：踏切障害事故
3. 発生日時等：令和5年4月10日（月）8時53分頃 天候：晴
4. 場所：宮津線 西舞鶴駅～四所（ししよ）駅間（京都府舞鶴市）下由里（しもゆり）踏切道（第4種）
5. 死傷者：死亡1名（公衆）
6. 概況
 - ・豊岡駅発西舞鶴駅行き第218D列車が当該踏切道で公衆と衝撃。
 - ・衝撃したのは高齢の男性。
 - ・男性は列車と衝撃時、シニアカーに乗車し、北側から踏切道に進入（西舞鶴駅に向かって左側から踏切道に進入）
7. 原因：運輸安全委員会において調査中
8. 事故後の鉄道事業者等の対応
 - ・鉄道事業者、関係市町村、関係機関により、踏切対策会議を開催
 - ・当該会議において、路線内の3種踏切道、4種踏切道について廃止もしくは1種化に向けた調整を実施
 - ・廃止、1種化する踏切の選定・優先順位を整理



踏切道数の推移

- ・令和4年度末現在踏切数は、32,442であり、対前年度比98減であった。
- ・内訳は、第1種踏切道31減、第3種踏切道20減、第4種踏切道47減であった。

○ 踏切道数の推移

年 度	第 1 種	第 3 種	第 4 種	合 計
平成30年度	29,748 (▲53)	698 (▲25)	2,652 (▲74)	33,098
令和元年度	29,717 (▲31)	684 (▲14)	2,603 (▲49)	33,004
令和2年度	29,567 (▲150)	639 (▲45)	2,527 (▲76)	32,733
令和3年度	29,473 (▲94)	612 (▲27)	2,455 (▲72)	32,540
令和4年度	29,442 (▲31)	592 (▲20)	2,408 (▲47)	32,442

※括弧内は減少数

年々減少しているものの、減少率は鈍化傾向
特に4踏切の減少数が大幅に減った。

○ 1種化の推移

年 度	1 種 化
平成30年度	39
令和元年度	32
令和2年度	31
令和3年度	31
令和4年度	17

令和4年度の1種化が減少

4種踏切の廃止、1種化に向けては、道路管理者、鉄道事業者が地域住民など関係者と協議に取り組んでいるものの協議が進まない現状。
先ほどの事例のように、全体的な協議において、継続的な議論が必要。